

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672700313		
法人名	医療法人弘愛会 西村内科		
事業所名	医療法人弘愛会 西村内科 グループホームさくらプラザ倉梯		
所在地	舞鶴市倉梯中町3番地の2		
自己評価作成日	平成23年8月18日	評価結果市町村受理日	平成23年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672700313&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

買物・調理・掃除・趣味・嗜好等一人ひとりの出来る事を見極めながら、入居者と職員が共に笑い共に唄い、共に悩みながらも、助け合っのんびりとした生活を送っておられる。
職員は業務優先にならず、入居者を主体に意思を尊重し、入居者一人ひとりがその人らしく生活を送っていただけるようお話を伺い、実践するよう取り組んでいる。
また、個々の職員が目標を立て自己評価するとともに、他職員も評価するなど職員同士でも認知症に対する知識・技術の向上を図る取組みを行っている。
健康面では、24時間対応の医療体制があり、連携しながら安心して生活を送っていただける環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体である当該ホームは、週1回の往診と看護師の週2回の訪問で利用者の健康管理をしており、医師、看護師共、夜間対応も出来、安心出来る医療体制となっています。法人の理念を基に個々の職員が目標を立て実践し、互いに評価をしい理念に沿ったケアに積極的に取り組んでいます。理事長と職員が直接話せるミーティングの機会を設けたり、会議の前に職員から意見を聞き、それを議題としてあげるなど、職員の意見や要望を運営に反映させ事業所の向上にむけて取り組んでいます。地域との関係も深まり、学校や保育園との交流や餅つき、歌、踊りのボランティアなどの訪問もあり、避難訓練時には地元の消防団の指導や協力があります。職員は一人ひとりの利用者の出来る事を見極めながら、個々に合わせたケアに心がけており利用者は穏やかに過ごされているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就業時に、理念が書かれたカードを渡し、月に1度のミーティングで確認合っている。	高齢者の尊厳や自立支援、地域での暮らし等を謳った理念と運営方針が明記されたカードを職員に配布し、ミーティング等で振り返る機会を持っています。また職員は、理念をもとに自分自身の目標を立て3人1組のグループでお互いを評価しながら3カ月毎に全体を振り返り、目標の達成に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所とのお付き合いや、小学校の授業での訪問と、その後の個別の訪問や、地域の方を招待してお餅つきなど交流を図っている。	自治会に加入しています。隣近所とは馴染みの関係が出来ており、散歩時に挨拶を交わしたり、餅つきや讚美歌、踊りのボランティアの来訪もあります。小学校の課外授業の受け入れや保育園の運動会を見学に行くなど、地域との交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊対応模擬訓練への参加と、地域の方に対応の仕方の助言や消防団の方の避難訓練参加の際には、認知症高齢者の対応についての話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で頂いた意見などを取り入れて、運営の改善や、新たに取組みを開始している。	家族代表、地域代表、地域相談員、市職員等の参加のもと2カ月に1回開催しています。行事予定や活動状況の報告、意見交換等が行われ、地域からの情報も貰いながら有意義な会議となっています。出された意見をもとに地元消防団の協力のもと避難訓練を実施するなど、ホームの取組みに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や、事業所行事への参加を頂いたり、運営上の疑問や問題については連絡を取り合っている。また、徘徊対応模擬訓練の協力依頼など市の事業にも協力している。	行政を通じての研修会に参加したり、問題が生じた場合は互いに相談し合うなど実際に行き来をしながらホームの納涼祭では焼きそばの担当をしてくれるなど協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階玄関の施錠においては、過去の経験も含めて、立地的な点からも安全面でのご家族の同意が統一して得られておらず、電子錠を使用している。	職員は外部研修に参加したり伝達研修を行い身体拘束に対する理解を深めており、拘束のないケアを心がけています。玄関はデイサービスが開いているときは施錠していませんが、ホームの入り口は電子錠が使用されています。外に出たい様子があれば、一緒に出るように支援し、拘束感のないよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を受ける機会を持つようにし、研修で学んだことは、報告し共有するようにしている。		

グループホームさくらプラザ倉梯

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して法人内の担当に相談したり話を伺い学んでいるが、研修については、参加したいが適当な研修がなく参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容については、契約書及び重要事項説明書により説明し、ご理解と納得を得てから締結している。内容の変更についても、その都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際やプラン作成時に直接伺ったり、郵送物に要望等をお知らせいただけるよう書面でも働きかけている。	運営推進会議、納涼祭後の家族交流時、面会時等、家族の意見・要望を聞く機会が多くあります。ケアに対しての要望も出ており職員間で話し合いの時間を設けたり、アンケート方式による満足度調査の実施も予定しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とはミーティングや、業務の合間にも話をできるようにしている。管理者と経営者も常に要望を出し合える状態にあり、経営者と事業所職員とのミーティングの機会も設けられている。	月1回のミーティングの際には、事前に個々の要望等を記入する等、意見を言いやすい環境が出来ています。また、法人の運営委員会に管理者が参加したり、理事長が参加するミーティングで職員の意見を直接伝える事ができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の実施、介護職員処遇改善交付金の活用による支給や、時差勤務手当の実施等改善されつつあり、評価することで向上心をもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数など、職員に合った研修会に行く機会を設けたり、資格取得のための研修会に参加できるよう勤務を配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の定期的な研修への参加や、交換研修の受け入れ、舞鶴市グループホーム連絡会への活動にも職員を参加させ交流も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、本人に関する情報を伺ったり、本人の困っておられる事、望んでおられる事を確認したうえでサービスを提供するようにしたり、提供出来る事、出来ない事を明確に話すなどし、納得を得る事で安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、本人に関する情報を伺ったり、ご家族の困っておられる事、望んでおられる事を確認したうえでサービスを提供するようにしたり、提供出来る事、出来ない事を明確に話すなどし、納得を得る事で安心を確保している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの入居にあたり、本人とご家族がその時に求めておられる事をお伺いし、望んでおられるサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の生活の中で、職員と入居者の方が出来る事を助け合いながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者にかかわる事柄については、電話などで連絡をとるようにしたり、入居者の生活の様子を写真と共に報告するなどしている。また、グループホームの行事への参加を求めたり、来所頂く機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人への電話の援助や面会の受入れや、思い出の場所への散歩やドライブなどを行っている。	知人や親戚の方が面会に来られたり、馴染みの美容院や生まれた所の近くへドライブに行ったり、年賀状や電話のやりとりなど、馴染みの関係が継続できるように支援しています。また海外に住んでいる家族に会いに行くための手続きなどの支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、座席を配慮したり、一緒に家事を行ったりレクリエーションを行う機会を持ち、共に楽しみ、共に支えあっている。		

グループホームさくらプラザ倉梯

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族よりその求めがあれば対応し、次の生活に関する手続の支援や、退居間もないご家族には行事のご案内もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や生活歴から、本人の思いを聞いたり、ミーティングなどで情報を出し合い、本人が安心して好まれる支援が出来るよう努めている。	入居時に家族や本人から聞きとり、好みやできること等の情報はセンター方式も一部使用し思いを把握しています。入居後の新たな情報は赤字で追記したり、日々の会話や表情、行動などからも把握し、どのような暮らしがしたいのか、出来なくなったところをどのように支援していくかなど、ミーティングで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より情報を収集し、入居後にもご本人やご家族、知人から知りえた情報を更新し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭での過ごし方などを把握し、医療との連携をとりながら無理のない生活を送って頂けるよう努めている。また、出来る事は自分でしていただくが、負担にならないよう声掛けをしたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、ご本人・ご家族の希望を聞き、月に1回のミーティングに医療関係者も出席し、話し合われた個人の状況を基に計画を立てている。	家族、本人の意向に沿った具体的な介護計画が立てられており、日々介護記録に落とし込み、計画にそって実施出来ているかの確認をしています。月に1回看護師参加のもとカンファレンスを実施し、状況に変化があった場合はプランを変更しています。3カ月に1回評価し計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にプランの内容を実施した場合には、その事を番号で記入するようになり、その結果を踏まえてミーティングで話し合いモニタリングにより次の計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに応じ、相談しながらプランの内容以外の事柄も支援するよう努めている。		

グループホームさくらプラザ倉梯

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時の消防団の協力など、地域資源を把握し、安全な生活が送っていただけるよう努めている。また、保育園の運動会の招待や地域のお祭・行事の情報を提供していただき参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望により希望される医療機関を受診されており、状況に応じた支援をさせていただいている。	入居時に説明し希望に応じてかかりつけ医を変更することもあります。提携医から週1回の往診と週2回看護師の訪問があり、健康管理がなされています。緊急時には医師の夜間対応もあり手厚い医療が確保される体制が整えられ、利用者や家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で、看護師に連絡がとれる体制にあり対応していただいている。また、月に1度のミーティングにも出席がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人とご家族の希望に応じ、医療機関との情報交換と話し合いにより、法人全体で早期退院の体制をとっており、事業所の状況も理解いただいている。また、法人の医療部門との連携もとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、入居時に伺い、状況に応じ再度確認し事業所の出来る範囲も説明しながら話し合いにより実施している。	終末期の対応については入居時に説明し、看取りの場所や医療機関、延命措置等について希望を聞いています。状況が変わった時点で、再度家族に確認を行い、医師の指示により進めていきます。看取りの経験も何度かあり、家族自身が看取りたいという希望があれば家族も付き添うなど、職員と協力しながら方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはマニュアルがあり対応している。医療機関との連携についても見易いところに掲示している。また、避難訓練や、救命講習の受講をすすめ、その時に応じた担当看護師の指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練と、地域消防団の避難訓練への参加により協力体制を気付けるよう努めている。	避難訓練は昼・夜間を想定し、計画書を消防署に提出して、地元消防団の指示のもと実施しています。警察や消防団には少しでも情報を貰うようお願いし、協力依頼をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特別な場合を除き、名字で呼ぶなど人格を尊重し、声掛けや支援を行うよう心掛けているが、状況や入居者の状況を考え過ぎ職員優位の対応をしてしまう事がある。	常に尊厳のある言葉使いに気をつけ、名前は名字で呼び敬語を使うことを基本としています。プライバシーを損なうような対応や言葉がみられた時は、個人的に注意をしたりミーティングで話をするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を汲み取るように心掛け、表現の難しい方については選択肢をもって問いかけたり、普段の反応などを見ながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを優先するように心掛けているが、他の方との兼ね合いや健康上好ましくないと思われるときなどは、業務優先になることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好まれる色柄の服を購入したり、選択できない方については普段の様子を見ながら配慮し職員が選ぶようにしている。また、美容院を利用され好まれる髪形にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じ共に炊事を行っている。また、メニューについては、希望が伺えればそれに応じ、そうでない場合は、個々の好みや食べ易さ、栄養価を考えながら献立作りをしている。形態についても個人に合わせている。	日々、チラシを見ながら献立を決め、月に1度栄養士に指導を受けています。1日に2度利用者と食材の買い物に出かけたり、準備や後片付けもできることを一緒にして貰っています。食事中は音楽を聴きながら職員も同じものを食べ会話を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度は管理栄養士にメニューを見ていただき指導を受けている。食べる量などは、普段の様子や体重、検診での血液検査の結果なども考慮し調整している。また、水分補給は常に進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な方法で、個々に応じた口腔ケアを行っている。		

グループホームさくらプラザ倉梯

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握しながら、失敗やオムツ類の使用が少なくなるよう取り組んでいる。	おむつの使用が少なくなるよう、トイレでの排泄を大切に支援し、個々の排泄パターンを把握し、誘導しながら自立に向けて取り組んでいます。基本的には布の下着にパットを使用し、失敗があってもトイレに座る事を習慣付けることができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や、食物繊維類の摂取に努め、個々には薬剤も併用しながら便秘にならないよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望をされる方が無く、曜日を決めて声掛けを行っている。但し、嫌がられる方などは無理には勧めず、時間をおくなどその気になられるのを待って勧めるよう努めている。	週3回は入浴できるようにしており、希望があれば毎日の入浴も可能です。拒否される場合は時間をおいて何度か声をかけ対応しています。職員とマンツーマンで会話を楽しんだり、入浴剤を入れたり柚子風呂など、入浴が楽しみなものとなるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の中で、年齢・体力・習慣などに応じ休憩していただいたり、就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬剤の内容が確認できる状態にあり、服薬の支援についても単独での確認でなく、複数での確認を行っている。また、服薬される際には、日にちと服薬時間、名前を確認している。症状の変化については、常に医療との連携と訪問により対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を考慮して家事に取り組んでいただいたり、みんなで楽しめるようなレクリエーションや体操を考え楽しんでいただいている。また、コーヒーの好きな方は、個人に応じ飲んでいただける機会を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方については、個々に外出できるようにしている。また、普段いけなような場所についてもご家族を含めて相談しながら実現するよう取り組んでいる。	利用者の希望を聞ながら散歩や買い物に出かけたり、中庭で作っている野菜の収穫や、そこでのボール遊び等、外に出る機会が多くあります。ドライブや季節毎の花見、紅葉狩りなどの外出支援にも努めています。	

グループホームさくらプラザ倉梯

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使われる能力が低下しておられ、現在は、欲しい物については、ご家族了解の基、立替払いの対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話を掛けていただいたり、取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住スペースの照明や空調に配慮したり、季節ごとの行事に合わせて共に作った飾りなどを壁に飾っている。また、トイレの場所などは、別に表示を増やしたりして分かり易いようにしている。	大きな窓からの採光でリビングは明るく、テーブルには季節の花や観賞用の野菜が飾られ、側のキッチンからは料理の匂いが漂ってきます。温度、湿度管理もされており居心地よく過ごせる空間となっています。またソファを置き、寛げるスペースも設けています。少人数単位で過ごせるよう更にソファの購入を予定しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いて、一人や仲の良い方と過ごして頂ける空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのある家具などを持ってきていただけるようお願いし、持ち込まれておられる方もある。そうでない方は、家族との写真を飾らせていただいたり、好まれるものを置かせて頂くようにしている。	各居室にはベッド、洗面台が備え付けてあり、馴染みのタンスや、仏壇、テレビ等が持ち込まれています。また絵画や写真、手作りの作品が並べられ落ち着いて暮らせるよう配慮されています。ベッドの位置なども家族と相談しながら決めており、希望があれば畳を敷くこともできます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示を分かり易くしたり、衣装ケースなどは文字で理解できる方については引き出しに表示を付けさせて頂くなどしている。調味料の表示など。		